



深田久弥

山の文化館だより

令和元年
夏号

深田久弥 山の文化館
〒921-0067
石川県加賀市大聖寺春場町十八
TEL (0761) 721-3311
FAX (0761) 721-1181

長野県遠山郷上村下栗（現飯田市）へ
深田久弥は二度訪れている。最初は昭和
十年八月七日で、二度目は昭和四十二年
十二月三十一日であった。

最初は光岳から赤石岳までの縦走が目
的であった。八日朝下栗を発ち、二日間
の停滞の後、何とか光岳には登ることが
出来た。しかし、その後も悪天候のため
縦走はかなわず、十四日下栗に帰り着き
一泊した。この時は、野牧金作方に泊ま
り、山案内人の野牧福長を雇っている。
案内人組合は、作品の中では聖鳳会案内
人強力組合とある。この組合は、昭和三
年に結成されたとのことであった。（こ
のときの登山については「山の文化館だ
より」平成三十年秋号でも触れている。
これらの赤鉛筆で書き込みのある地図
を、皆様にお目にかける機会も作りた
い。）二度目は、その当時、数年来続け
ていた元日登山で御池山に登るためだ
であった。この時も、二泊している。そ
れぞれの訪問は、作品として残されている。
『山岳展望』の「光岳」と『山頂の憩い』
の「御池山と地蔵峠」である。
「御池山と地蔵峠」のなかに「下栗ほど
美しい平和な山村を私はほかに知らな

い。」との一文
があるのが事
の始まりであ
る。下栗では自
治会が、この一
文を埋め込ん
だ石碑を立て
た。除幕式を報
道する地元
の信濃毎日新聞
が、小諸のT氏
から山の文化
館に送られて
きた。そして、読書会で「御池山と地蔵峠」
を読むこととなった。その場で、すぐに下栗
訪問が決まった。



下栗では、下栗案内人の会会長の胡桃沢三
郎さんのガイドでビューポイントを目指し
た。この道は、地区の人々の手づくりだそう
である。はんば亭からビューポイントまでの
道すがら立ち止まっては、林業や畑仕事など
下栗の生活についての話を聞いた。ビューポ
イントからの眺めは写真で見た通り素晴らしい
ものだ。この景色が広く世に知られる
ようになったのは、引越のサカイのコマー
シャルがきっかけだそうである。

その後、十五社大明神下の集会所で野牧知
利さん（「御池山と地蔵峠」に登場する「リュ
ウとした背広を着け」た青年）を交えて懇談
した。昭和十年に泊まった野牧金作方はもう
建物もないこと、深田久弥が雇った野牧福長



は野牧知利さ
んの大叔父に
当たること、案
内人組合の成
立や、その他
案内人のこと
など当時の話
を聞くことが
出来た。
天候不良な
ど条件が揃わ
ず、御池山登山
は断念した。

この一冊

深田久弥の功績のひとつは「ヒマラヤ
の高峰」を世に残したことであろう。最
初に出版された「ヒマラヤの高峰」全五
巻（雪華社刊）のほかにも、久弥没後、
一九七三年六月から八月に、白水社から
に出版された全三巻、一九八三年三月か
ら八月に、同じく白水社から出版された
全五巻の二種類のものがある。三種類と
も内容が違っているの、一度手にとつ
てご覧になってはいかがでしょうか。資
料文献室にはすべて揃っています。

伊吹のさしも草

高門光太郎

かくとだに えやはいぶきのさしも草

さしも知らじな もゆる思ひを

みんな知っている百人一首の中の一首で伊吹山のもぐさを題材にして詠んだ恋の歌です。

私の楽しみのひとつは深田久弥『日本百名山』の読書会です。読書会の良いところは百名山の一座を皆で読み進めるとその山が身近に感じられるとともに改めて久弥さんの山文学に触れることが出来ることです。

「伊吹山」を読みました。百名山に選ばれた近江の伊吹山、標高は高くありませんが植物の豊富な美しい山です。久弥さんもこの百人一首の歌を引用して植物の豊かさを讃えています。

私は百人一首に詠まれた伊吹山は近江の伊吹山でなんの疑いもありませんでした。今回のことがなかったら近江の伊吹山以外に伊吹山があることも知らなかったでしょう。



百人一首も好きな私は調べてみました。なんと伊吹山は近江ではなく下野（しもつけ、栃木）の伊吹山であることがわかりました。理由はこうです。文献によれば、百人一首が詠まれた平安時代、下野の伊吹山がもぐさで栄えたこと、近江の伊吹山のもぐさが産地として栄えたのは鎌倉時代以降とのこと、もうひとつは、作者の藤原実方朝臣は数奇な人生を歩んだ人物で陸奥（むつ）に左遷され最後はその任地で没したとのこと、これらのことを考慮するとこの歌に詠まれた伊吹山は下野説が妥当と思われます、私もそのように受け取りました。

「日本百名山」の一大発見かとすこし嬉しくなりました。が、ちよつとまでよ、万葉集をはじめ日本の古典に詳しい久弥さんが承知でないはずはないと思います。はじめました。久弥さんに確かめたい気持ちがつのります。

久弥さんはきっとこんな風に答えてくれることでしょう。

「お、気がついてくれましたたか、でもこの伊吹山は百名山に選んだ近江の伊吹山こそふさわしいと思わんかね」温かな久弥さんの笑顔が目に見えました。

● 間こう会予定

月に一度、山に関わるお話を聞いています。ぜひご参加下さい。

（聴講無料）

午後一時半より三時
深田久弥山の文化館聴山房

■ 八月十一日（祝・山の日）

演題…深田久弥とヒマラヤ

講師…真栄 隆昭氏

（深田久弥と山の文化を愛する会会員）

■ 九月二十九日（日）

演題…下栗―深田久弥の足跡をたどる

講師…紋谷 友幸氏

（深田久弥と山の文化を愛する会会員）

● 読書会のお誘い

『日本百名山』など深田久弥の作品を読んで、山やその自然、文化について語りあっています。お気軽にご参加下さい。

（参加無料）

七月 十九日（金）「八ヶ岳」
九月 二十日（金）「弥彦山」
十月 十八日（金）「安達太良山」

● 場所Ⅱ深田久弥山の文化館
● 時間Ⅱ午後一時半より三時

* 詳細はホームページをご覧ください

● 編集後記

読書会関連の記事が主体になりましたが、夏号をお届けします。山の文化館の大イチョウは緑の葉で覆われています。しかし、ギンナンのジュウンドロップがほとんどありません。例年と様子の違う六月でした。

Y・O

各種お知らせ詳細はホームページをご覧ください

深田久弥山の文化館ホームページ <http://www2.kagacable.ne.jp/~yamabun>